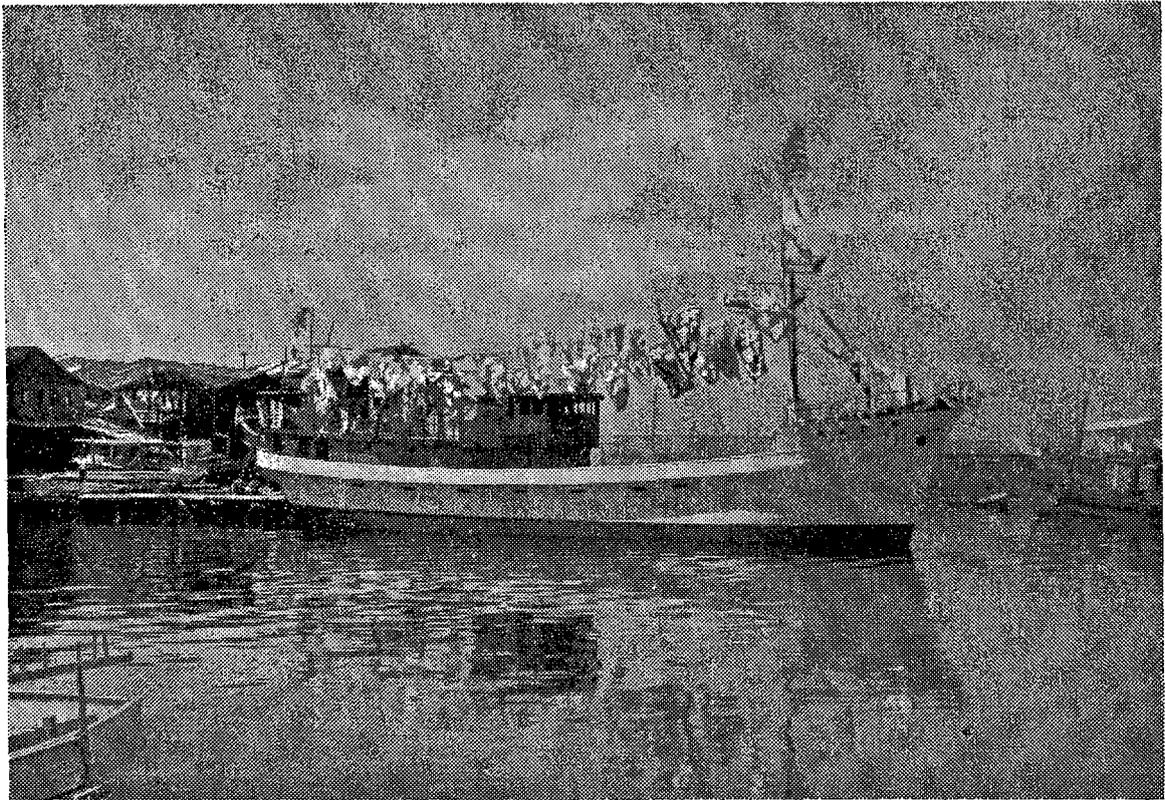


水拓

第卅六号昭和卅四年八月十五日発行
毎月十五日一回発行 一部 十円
昭和卅二年十月十八日 第三種郵便物認可

八 月



(写真は7月26日進水した第一兵庫丸)

兵庫県漁業協同組合連合会
財団法人 兵庫県水産業改良普及協会

シヤコの加工・販売について

本誌六月号において東京都中央卸売市場で販売されている三重県産のシヤコについて簡単に紹介しましたが、その後三重県の現地においてシヤコの加工、販売状況を調査してきましたので概略をとりまとめるところにいたします。

調査は、三重県四日市市富田一色の加工業者について行いました。

この地方でのシヤコ加工は、主として九月中旬頃から翌年三、四月頃まで、五月以降になると製品が腐敗し易く、出荷しても廃棄処分になるおそれがあるため製造してないとのこと、調査の当日も製造予定はなかったのですが、少量ながら特に現物について加工方法をみせてくれました。

原 料

この地方のシヤコも本県のものとは大差なく、一尾の体長、大(一四〇〜一五〇)中(一〇〇〜一三〇)小(七〇〜九〇)のものが混って一貫目当り約二一〇尾程度のもとなっていています。

加工に当っては鮮度のよいもの、できるだけ活きたものが望ましい。

設 備

いわし煮熟用の角釜又は丸釜でよいが、煮熟中に沸騰し過ぎて湯が溢れ出たり、あわてて水を注入して湯の温度を下げたりすると品質に影響するので火力調節のできるバーナー装置の釜がよい

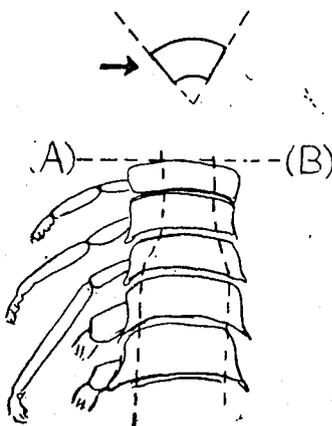
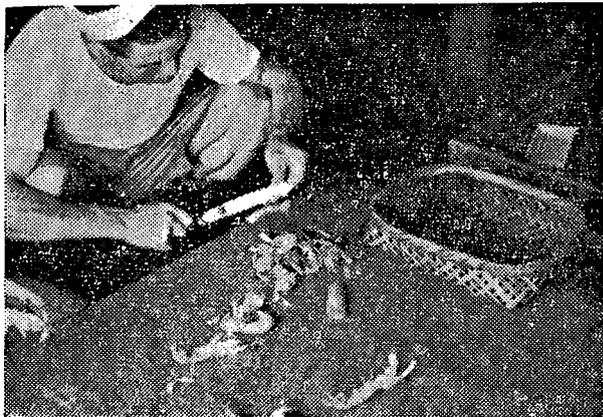
加 工 方 法

- (イ) 煮熟用塩水は、水一二六リットル(七斗)に対し、食塩三キロ(八百匁)位の割合とし、これが沸騰したとき原料を投入、よく攪拌しながら煮熟する。時間は、原料投入後再沸騰してから一五分乃至二〇分間位。原料の投入量は、用水一八〇リットル(一石)に対し五・五乃至六キロ(一・五貫)とし一回にあまり多量投入してはいけない。
- (ロ) 煮熟が終り釜から抄い揚げられたシヤコを、若干時間放置してさ



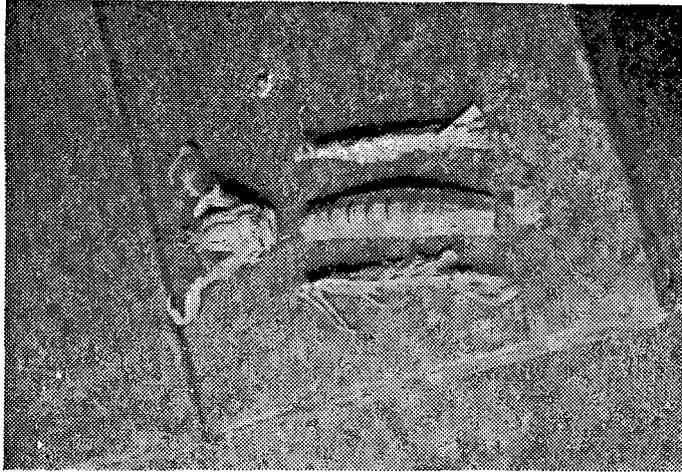
上の写真は頭部第二関節のところを切り落している。(ラシヤ鉋使用)

ましてから、ラシヤ鉋又は木鉋を用いて頭部、体側(脚と共に)、尾部を切り離し、背甲を剥がす。



第三、四関節の部分のところは少し深く鉋を入れること。(点線のとおり切り落とす)体側を切り落した後の頭のところの切口(A)―(B)は、右図(矢印)のとおりである。

(上の写真は体側を切り落とすところ)



(ハ) 剥ぎ終わったシャコは、いったんセイロに並べ、次に木箱（縦一七センチ・横九センチ・深サ一センチ）に、大で六乃至八尾、中小で一〇尾程度をきれいに並べる。

荷造り及び輸送

木箱八〇個乃至一二〇個をダンボール函に入れ、荷造りして冷蔵庫に入れ、(-)15度(C)で五乃至一二時間放置し、出庫の上客車便にて東京に輸送する。このときダンボール一函につき

(全部切り終ったところ)



(イ) 背中を剥がしているところ、尾部の方から剥いでいく

き約一キロのドライアイスを入れて

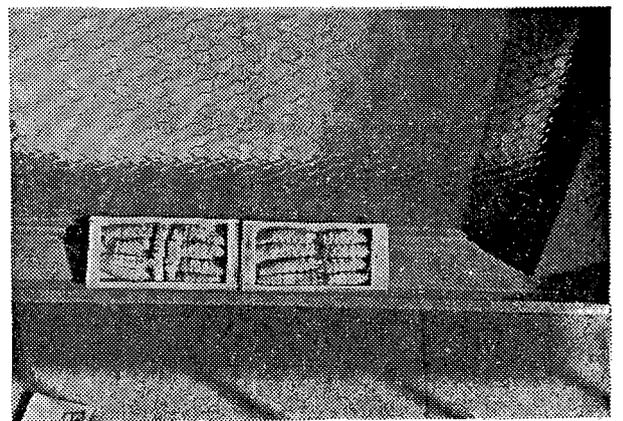
販 売

(イ) 出 荷 先

主として東京都中央卸売市場内の卸売人に販売を委託するのであるが、殆んど都内のすし屋に販売されている。(東京のすし屋でシャコのすしができない家がない程度普及されている。)

(ロ) 販 売 価 格

販売価格は、その時の入荷量に



(木箱は最近次第に小さくなりつつある。)

木箱の底板は手割板を使っている

より相当の巾を生ずるが木箱一個当り三〇乃至七〇円で最高一〇〇円に売れた時もあるとのことである

(イ) 製 造 原 価

木箱一個当りの原価は概算次のとおりである。

原 料 代 一三円

(生一貫三〇〇円の時)

人 件 費

(女工一人当、一日一〇〇箱製

目 次

シャコの加工販売について
水産課岸技師……………1

いよいよ聞取調査を開始
集約経営調査核心へ
水産試験場……………3

第一兵庫丸の進水式
水産課 森本技師……………6

漁業今昔
さんまの巻 (3)
平岡安民……………7

水産ニュース……………9

造し、一時間当賃金三〇〜四〇
円としたとき)

木箱代 二・五円
運賃 二円

荷造費 〇・五円
冷蔵費 〇・三円
その他 〇・七円

販売手数料 三円
計 二十六円

右の計算によると、原料を一貫
当、三〇〇円で購入しても、木箱一
個当り三〇〇円で売れば、一応採算
がとれるわけであるが、品いたみ、
腐敗廃棄等時にはあるのでそれを
勘案しなければならない。

む す び

調査の結果は、概略以上のとおり
であります。が前述のとおり夏季には
今のところ出荷不可能のようであり
又東京地方におけるシャコの需要量
は、都内約六〇〇軒のすし屋に対す
る販売量だけのようで、一時に多量
の荷が集中すれば価格は当然暴落す
ることになる。

従って、シャコの加工を始めよう
とする場合には次の問題を解決して
から、かからなければならぬと考
えられます。
第一、今のところ関西でのシャコは

殆んど未利用資源となっている
ので、大いにシャコの食用を普
及、奨励し東京のみに頼らず販
路の拡張を図る必要がある。

第二、夏季においても輸送可能なら
しめる鮮度保持を研究する必要
がある。

右の問題解決のため県においては

いよいよ聞取調査を開始

―集約経営調査、核心へ―

ムダのない働き

―沿岸漁業集約経営調査ってイッ
タイどういう調査ですか。

―今さら、弱った質問だナ。拓水に
も二回はかり解説がのっていたと
思うが―

―確かに書いてありました。しかし
読んでみても、も一つハッキリと
ハラに収まらんのて

―拓水七月号には「資金と技術と労
働を最も有効に使って、漁家の暮
しをらくにすること」がこの調査
のネライだ、と書いてある。これ

目下関係方面と連繫をとりつつあり
ますので近日中には、その見通しが
つくものと思っております。くわし
い事は流通係まで御連絡下さい。

「お願い」
各単協の漁獲高報告には必ずシャ
コを別にして報告して下さい。
(流通係 岸技師)

で充分だ、と思うのだが、まだわ
かりにくいかな?

―たいへん結構なネライなんです
が、そのためになんであんなヤヤ
コシイ調査なんかするのですか。

―預金がいくらあるか、子供のオヤ
ツにどれだけ使ったか、何時間働
いたか、とか、家族の名前、年令、
職業、病気などをきいたり…

―その説明の前にこの二枚のグラフ
を見てくれたまえ。これは二軒の
家の収入、支出、労働量の一年中
の月毎の変動(あがり・さがり)
を示したものだ。この二軒は、家

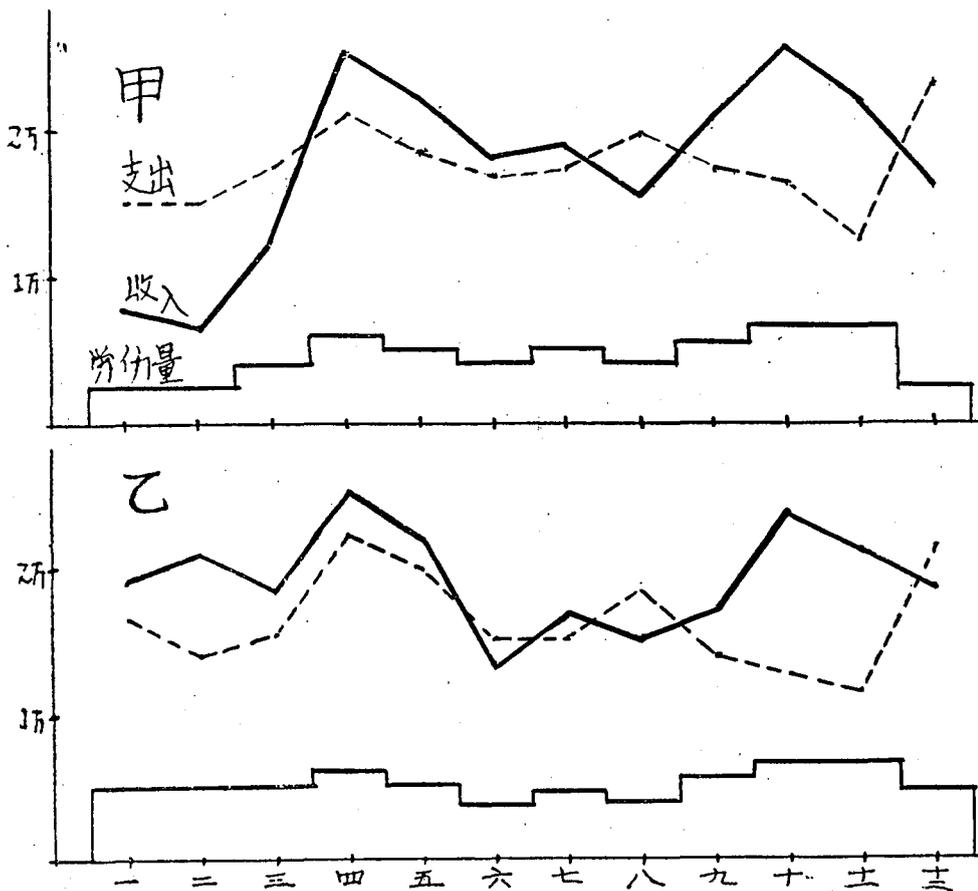
族構成、暮しの程度など、ほぼ同
じくらいなんだけれども、収入と
支出のバランス(つりあい)は、
乙の方がはるかによい。そのよい
原因は何かというところ、甲は冬によ
い仕事がないため、働く日(労働
量)も少ないし収入も少ないから
である。月毎に赤字・黒字をくら
べてみても、甲は一・二・三・八
・十二の五ヵ月が赤であるのにく
らべ、乙は六・八・十二の三ヵ月
が赤字であるにすぎない。

―甲は夏にかせいで、冬に使って
いるという感じですね。乙はときど
き足が出るというくらいだから、
まず安定した生活だといえるんじ
やないですか?

―結論的にいえばそうだね。甲は内
海の専業又は専業に近い漁家の姿
なんだ。しかし内海にも少数なが
ら乙型の漁家がある。どんな漁家
だと思う?

―サア?冬にも収入があるという
……ノリ養殖をやっている漁家か
ナ?

―ズバリだ。ノリ養殖は十二月から
三月までが収入のピーク(山)で
この期間、仕事も多く、収入も多
いというわけだ。ノリ養殖は、単
に漁場の生産力を増加するだけで



なく、遊休労働力をもって収入とすることができるので漁家のくらしを安定するのに非常に役に立っていることがわかるでしょう。

—しかし、そうはいっても、どこでもノリがつくれるわけでないし、そんなことはすでにわかったことではないでしょうか？

—それはそうだ。しかしこれは一例として出したままで、甲型の漁家のくらしを安定させるには、夏の八月の赤字対策としては例えばテングサの採取なども考えられる。またワカメの人工増殖、促成をやって三月に増収をはかることもできるんじゃないか。

—ナルホド。それらいろいろ考えられる対策のうち土地の条件に適した仕事を導入するということですか？

—そうだ。同じ働いても、ムダなく、もうけを多く働こうというわけだ—

—すると、集約経営調査とは、ムダのない働き方のための調査といっ

てよいことになりませんか
—今までの調査はネ、自然条件を先に調べた。ここではノリができるとか、ワカメが採れるとか、イワシが多いから加工業が大切だとか

……しかしそんな仕事を新しく始めてもそのためにどれだけ漁民のくらしが安定するか、ということはあまり調べなかった。

収入見込み何百万円と予想を立ててみても、その何百万円がどの時期にどんな人々のふところに入るか、というようなことをよく調べ

ることをあまりやらなかった。

—そのために子供のオヤツ代を毎日記帳しなければいけないのですか
—オヤツ代をぬかせば、その分だけ家計費が少く記帳されてしまうでしょう。また貯金がどれだけあるか、借金がどれだけあるか、というようなことも、経営のつりあいの上で大切なことではありませんか—

十年後の漁家人口

—六月に作った漁家世帯カードはどんなことに使うのですか？

—これを基礎にして漁家の階層分類を……

—チャット、そのカイソウブンルイ

—漁家をいろいろな型に分けることです。この調査で採用した型は次のようなものです。

1、漁業を経営せず、「備われ」

だけの漁業収入の漁家

2、漁業を自営する漁家であって漁業収入が全収入の二分の一以下の漁家

3、漁業を自営する漁家であって漁業収入が全収入の二分の一以上の漁家（これらをさらに次の四種に分ける）

イ、二種以内の漁業（養殖を含む、以下同）を経営又はこれに従事する漁家

ロ、三種又は四種の漁業を経営又はこれに従事する漁家

ハ、五種又は六種の漁業を経営又はこれに従事する漁家

ニ、七種以上の漁業を経営又はこれに従事する漁家

この六つの型にカトドによって全漁家を分類します。そしてこの中から四五〇分の一の割合で、

標本漁家をぬぎとります。

「ヒヨウホン？あのアルコール漬の標本ですか？」

「別にアルコール漬にするわけではありませんが、統計学上の言葉で全部のうちの一部だけをくわしくしらべようとするときに、これを標本調査法というわけです。」

「代表的というのと同じような意味ですネ。」

「少し違いますネ。代表的というの

普通よい意味につかうから、中よりの漁家を調べることになって出てくる結果がゆがみます。つまりアルガママの姿がかくされてしまふわけだ。それでは困る。それで標本漁家を選ぶ者の意志が入らないよう乱数表という数表を使っています。」

「いろいろな気を使うものですネ

「それでもどうかすると、ぬぎとった標本漁家が調査対象としてグアイのわるい場合がある。たとえば奥さんが今、病気で家計のことを聞けないとか、本人が大へんイコシな性格で、いくらこの調査は、税金などの資料にしないといっても、決して本当のことをいわないとか、……」

「そんなときはどうしますか」

「仕様がありません。病人を相手に聞取調査などするのは人道問題です。はじめからウソをいうにきまった人物を相手に調査しても経費と労力のムダです。そのために副の標本漁家を同数だけ選んでありますからそれによって振りかえるのです。」

「すると世帯カードは、聞取調査のための予備調査というわけですか？」

「か？」

「そればかりとは限りません。聞取調査は標本調査ですから、その結果はおのずから確かさに限度があるのです。世帯カードは、内容こそ簡単だが、全体もれなく調べた全数調査ですから、全数調査でやった方がよいことは全数調査の方でやるわけです。」

「たとえばどんな調査を？」

「いま、計画しているのは、十年後の漁家人口はどれくらいあるか？という推定作業です。十年後といっても、三年計画のこの調査が完了した後ですと、七年後です。さらに調査報告にもとづいて何か対策を講ずるとすると、五年後六年後ということになるでしょう。」

「だから、現在の人口、そのうちの働く人の数などを基礎にして調査をして、報告と書くときにはすでに遅いということになるでしょう。だから十年後の漁家人口がどうなるか、という推定を出してそれと比較するという作業が必要なのわけです。」

「子供が生れたり、人が死んだりすることとも考えなければなりませんね。」

「今後生れる子供は、十年後にはま

だ生産年令（働ける年令）に達しないので勘定に入れる必要はあまりないのだが、死ぬ人、成長する人は計算しなければなりません。成長の計算は楽ですけれども、死亡の方は平均死亡率などの統計を使って推定しようと思っ

聞取調査の進め方

以上の問答に出てきた聞取調査は八月から九月にかけて、約百世帯の標本漁家を対象にし、市役所（町役場）漁協組、本人、主婦の方に、いろいろなことをたずねて調査票を作ります。調査に当る者——つまり聞き手は、水産課、水産試験場、水産指導室、普及員、改良普及協会などの職員です。だから調査の結果は集約経営の目的だけに使われるので決して他の目的、税金や違反漁業の摘発などの資料にされることは、絶対にありません。

この聞取調査は、漁家経済分析の核心をなす仕事です。全数調査も、精密調査も、あるいは、団体調査、集落調査など（これは秋ごろに行います）いずれもこの聞取調査を補強する仕事です。野球にたとえれば、この聞取調査は四番バッターというところですが、ぜひとも長打一発ほしいところ、御支援をお願いします。

（水産試験場）

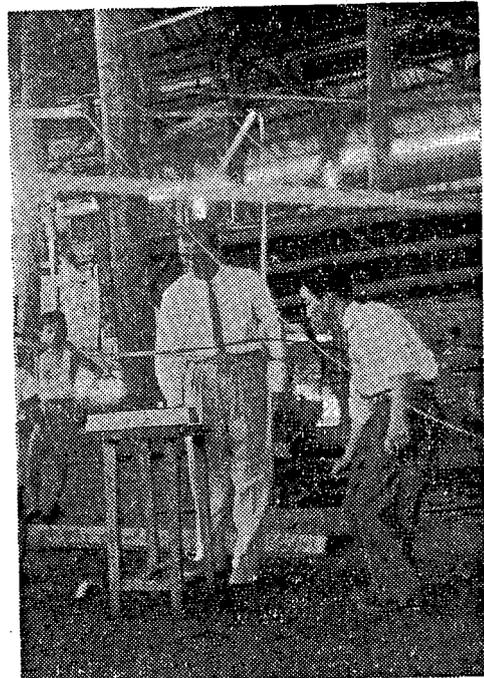
第一兵庫丸の進水式

全県下の漁民の熱意と努力を結集して創立された、兵庫県漁業株式会社、第一兵庫丸は七月二十六日博多湾において無事進水しました。

平素内海の一本釣りや延縄船或は小型底びき船を見馴れているわれわれには、一〇〇吨という巨体はまことに頼母しくみえます。

進水式に先立って、ブリッジで船魂様をお祭りして、西上社侵以下関係者がうやうやしくお祈りしました。が、誰の胸にも、この船の安穩と、大漁を念じたことは、いうまでもありません。船上には写真のとおり、各方面からのお祝いの大漁旗四十数本が張り廻らされ色々とりどりにひらめいております。

真新しい木の香りが立ちこめ、遅い鉄板が真夏の太陽に照り映える中、正十一時からいよいよ進水式が始まります。簡素ながら厳粛な式です。徳島造船所社長の挨拶、来賓の祝辞にこたえて、西上社長が船主側を代表して関係者に感謝の言葉を



写真下は第一兵庫丸の船首
写真左は第一兵庫丸の支綱を切る西上社長

述べると共に、本県漁民が外洋進出への悲願をこめて、この第一兵庫丸を建造した趣旨を語り、今後の活躍に全力を尽して関係者の期待にこたえたいと、決意のほどを力強く挨拶しました。続いて「第一兵庫」と命名書を読み上げ、待構えた工員たちによって船上から紅白の餅が四方八方に撒かれました。いよいよ進水です。この間わたくしは馴れない手付でカメラをかかえてうろろう走り廻りながら、少しでもこの情景をキャッチして、参列出来なかった多くの

方々にお伝えしようと汗を流しました。

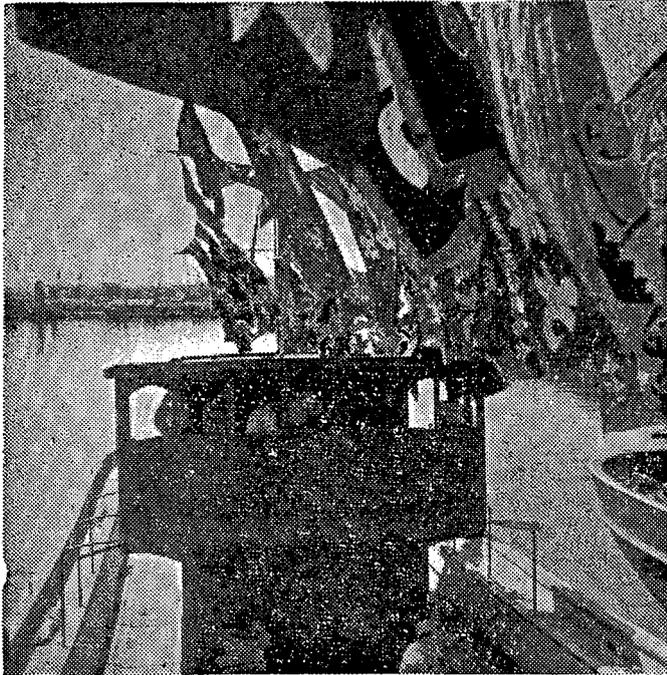
拡声機からは勇ましい行進曲が流れはじめました。船首から長いテープが参列者に渡されます。

西上社長の右手に銀斧が握りしめられました。万感こめた進水の一瞬です。十一時三十六分、ハッシとばかり支綱が切断されました。

参列者の歓呼と拍手の中に、大漁旗をひらめかし、テープの尾をひいて第一兵庫丸は静かに、そして力強くその雄姿を博多湾に浮べたのであ

ります。

本県が大型船による外洋進出を企図してから、すでに久しいものがあります。但馬の中型底曳船による沿海洲沖合漁場への出漁再開が最も可能性のあるものとして、試験船兵庫丸の改築もなり、関係者の涙ぐましい努力によって、まさに出漁という寸前、ソ連によるピョートル大帝湾の内海宣言など、国際情勢によりストップされました。又同じく北洋鮭鱒の延縄出漁も考えられましたが、これ又実現しませんでした。更に香



(写真上は第一兵庫丸の船橋)

住高校の大型練習船という構想の下は、かつお、まぐろ漁業をねらいましたが、全県下挙げての運動も空しく、県財政の再建整備のため、中止のやむなきに至りました。

こうした苦難の歩みを経て、ここようやく一〇〇屯の大型船を建造して、外洋進出の第一歩を具体的に踏み出す運びとなったことは、まことに感慨深いものがあり、又それだけに第一兵庫丸にかけられた使命と期待も大きいものがあります。

第一兵庫丸は、進水後直ちに艤装にかかります。シーゼル三三〇馬力

の主機をはじめ四八馬力の補機、発電機、冷凍設備、無線、方探、ローン、魚探など第一級の優秀装備がほどこされます。

そして、八月二十七日には海運局の、二十八日には水産庁の公式試験運転が行われ、月末には完全に竣功する予定となっております。

(県水産課森本技師)

漁業今昔

さんまの巻 (3)

平岡 安民

前年のわたくしのささやかな試みが意外の波紋をよび、さんま漁業組合が生まれ六十余隻が参加した。さんまブームは高潮に達した。連日漁協は新しい網地を一隻当り五反程度配給してこれを助けた。

昨年の七トン級では物足りぬので古船を物色した結果進徳丸（十五屯）を購入した。これは土地でも速力の遅いことで一、二を争うという老朽船であったが、春の海ならこれで大丈夫と考え大枚五千元を調達して入手したものである。もちろん金のある人は新しくこの漁を目的に造船計画を進めている向も多く、この中で船の粗末なことでは随一といってもよい位だが、漁では人後に落ちぬ自信があった。ひけ目を感じることは全くない。

忘れることのできぬ日というものがある。昭和十七年四月二十日、いよいよ

よ出漁準備も整い、昼頃出港東へ向けて五時間程走り夕方網を入れた。この日は吹雪を交えた西の風が風力五以上吹いており、春の西と高をくぐって出てみたものの波が高く網は一すじのロープのようにあば岩一つに纏絡してしまった。すぐ引上げたがそれでも五十貫くらいのさんまがかかっていた。相当魚がいることは、わかるのだがどうすることもできず、宝の山から引下がる気持で帰港する外なかった。岩も少し軽いように思われるのであるが、長さ三キロにも及ぶ長い網を改造するわけにもいかず窮余の策として小石を拾い集めて網で包みこれを五尋間隔に岩網に結びつけるという作業を大急ぎでやったのである。夕方から出漁風も収まり網を入れるとこれに船をつなぎ全員船室へもぐりこんで寝てしまった。しかしわたくしは寝るわけにゆかない三日に一度も他の船を見か

けることもない安全な沖合ではあるが、濃厚な魚群があると数時間のうちに網を沈められてしまう恐れがあるから、見張を怠ることができぬからだ。

二時間程たって徐ろに網をたくりよせてみると、夜目にも鮮かに銀鱗が光っており中網もずっしりと重い。もう一、二時間も漁夫を休ませておきたいし魚もかからせたい、けれども要心に如くはなしと揚網準備にかかった。先づ八分通りという魚のかかりようで、網を上げ終ると甲板は四尺位の高さに積み上げられ大体二千貫余り頃合の満船である。昨年からの夢はようやく実を結ぼうとする。兆しが明かとなった。漁夫達も喜び勇んで蛮声高く歌も出る。「キーコバラ、キーコバラ」旗を上げろというのだ。

大漁旗を朝風にはためかせながら浦項の港へはいつて来ると、同業者はもちろん町中のさわぎとなった。昨年より半月も早いので、まだ網つくりや船の仕度に余念もなかった人々はまさか、こう出し抜かれるとは考えておらぬのであわてて眼をこすった。半島の大新聞「釜山日報」は三段抜きで「新興漁業誕生」と書

き立てた。この日から二日なぎがつぎ合計七千貫を揚げた。昨年の一となぎ千貫にまだ事業として一株の不安をもっていた人々もこれで納得した。この頃の八千円は今の二百萬位の金額であるから小漁業者の注目をあびるだけのものはあったようだ。

春のさんまは脂がなくて不味いといわれているが、あっさりしていてうまいという人も多い。この漁獲物は直ちに漁協構内に引きこまれた。鮮魚列車に積みこまれ満洲北支へ向って送られた。

このあと千貫位の小漁が数回あったがわたくしはここ見切って北方東草に一週間滞在、この間に二千貫以上の大漁が二回あった。その後北上して五月十五日長箭に入港した。

ここは、名にし負う一万二千峯名勝金剛山のふもとである。丁度風が強く沖を休んだので、陸から来た家内子供らを帯同、外金剛温井里に一日の清遊をたのしんだ。温泉ホテル万竜閣につくと待ちうけたように一等室に案内し下にもおかぬもてなしである。悪い気はせぬがどうも腑におちぬ、賓客扱いはされる柄に見える筈がないからだ。あとで聞くと元山の漁業王佐々木さんから懇ろな依頼

があったためとわかった。佐々木さんとの因縁はあとでのべる。

窓辺を訪うせせらぎの音と、こうとうたる松籟に耳をすませ、湧泉に俗塵を洗った。翌日も午前中万物相などの奇勝をさぐり、りすとたわむれて遊んだ。

昼すぎになってから港へ出てみると、同業の船は早朝出漁したのことで、今日はもう漁の見こみはないが北方庫底港迄移動しようと思港した。一時間余り沖に走ると、さんまがにぎわしく飛んでいる。群れて飛ぶ魚は大したことはないと思っていたが、この日はあまりとび方がはげしいので試みに網を入れてみた。そしてすぐ端までもどつてみると、三十分位しかたっておらぬのにかつて見ない魚のかかりようで、もうあばが沈みかけている。これは大変と急いで引揚げにかかった。

僅かににぎりしかない網地が魚のかさで一かかえ以上の大きな丸太のようになっている。いくらも引かぬうちに、あばは沈んで所々につけてあるゴムの大ブイだけが辛くも浮力を保っているだけだ。十人の乗員が必死になって引くが、もはや一寸刻みにしか上がってこない。おまけにこの網の周囲にはさんまが真黒くな

って集っており、それがしや二む二網目突いているのである。さんまの捨身の攻撃の前に人間がまいてしまおうとしている。指ほどの小魚がこの上もなく恐ろしいものに見えてきた。網をとられる、悪くするとこのボロ船は荷を積みすぎて沈められる。そして全員寒流の海にのまれる。そんないやな予感が去来する。それでもどの辺で網を切って捨れるべきか決断はつきかねる。血眼の奪斗二時間余り、かけ声も杜絶えがちとなり疲れきった頃、網が急に軽くなった。幸か不幸か、魚の重みに堪えず四分ロープのあば綱その他が切断されて深海の底へ沈み去ったのである。

これと時を同じうして機関室から濡れ風となった機関士が飛び出して、青ざめた顔をひんまげて、「もう駄目です、船が沈みます、網を捨てましょう」と怒鳴った。しかしもうここには用はない。全速で港へ急ぐのみだ。機関室をのぞいてみると、フライホイールは勿論クラッチ、カプリングにいたるまで噴水のように水を巻きあげており、機関室は滝つぼのような凄じい有様となっている。機関士は今まで全力で排水ポンプ類を動かしていたが水は急激

にふえてきたとのことである。しかし全員が排水作様にかかれればこの小船を浮かせ庫底港まで二時間足らずの航程を維持することは不可能でないと判断をとったが、仮りに網を捨てようとしてもこの重い網を繰り出すためには多数が舷側に寄りねばならぬので危険をおかすことを免れない。スッポン、ウイング、パケツ、空缶等を武器として浸水に打ち克とうとそれだれ配置に就き、水車のまわるとごく大車輪の活動が初まった。

たそがれの頃、卵島という無人島の近くを通過した。この時

「島に乗り上げる、もう駄目だ」となるものが二、三人現れた。

わたくしも目の前にある岩礁の間へ船を乗入れて乗員の命を救うことを考えたが、この島には上ってみた所であとの困難が思いやられるので、折柄の無風のなぎを幸に、押し通すことを決意した。

「バカ野郎島に上ったって食うものもないだ、やめるなやめるな」と叱咤しつつ又機関室をのぞくと

水は減らぬがふえてもいない。甲板に水が乗ったのを見ると、船全体にはふえたようだが、機関室と前甲板が浮いておれば大丈夫だ。エヤバル

ブに浸水するまでは機関は動く。この古い船は甲板の裏表から浸水するらしく、これをとめる手段はない。沈みもはず、浮きもやらずというかつこうで傷ついた猛獣のようにヨタヨタと前進をつづけた。

それからの一時間は実に長い長い水魔との戦いであった。庫底の佐々

水産 ニュース

○ 大型魚礁の設置内定

窮迫しつつある沿岸漁業振興方策の一環として、又播磨臨海工業地帯の整備に伴う代替漁場の造成をねらいつつ、昨年来県や業界が水産庁に陳情していた大型魚礁の設置に対する国庫補助が内定したむね、このほど県に通知があった。この魚礁は、コンクリート製魚巢三、〇〇〇個乃至三、五〇〇個程度を一ヶ所に沈めるもので、設置のあかつきは、これを「上島礁」と呼ぶことになつてゐる。昨年一〇月から、県水産試験場が中心となつて家島郡島東端の上島附近において適地調査を行つていたので、この苦勞が報いられたわけである。

木棧橋に横付けして船を固着すると全員そこえ人心地のつくまで、しばらくは文字通りのびていた。

この日の漁獲量四千五百貫初めの超大漁であるが、網を半分落としたので結局損か得かわからぬ始末となつた。

県の構想によれば、将来この種大型魚礁を数ヶ所連接して、一大魚礁郡を築き、第二の鹿の瀬とも呼ぶべきものにしようという雄大なものである。この大型魚礁は県営事業として実施されるので、九月の県議会に提案され、十月から着工される予定である。

○ 本年度の沿岸漁業振興総合対策事業近く決定

瀬戸内海漁民が多年にわたつて要望していた沿岸漁業の振興施策に対する国庫助成が、近く決定される運びとなつた。

水産庁では、今年から瀬戸内海を総合振興地域として、その振興を図ろうと、去る三月及び六月、全瀬戸

内海にわたる計画調査を完了した。これに応じて、各府県から七月夫々本年度の振興計画を提出したが、本県でも総額約二、六〇〇万円（浅海増殖関係を除く）に及ぶ事業計画を提出している。目下国において事業計画を審査、整理中の段階であるが、これがいよいよ近く決定される見込みである。（水産課）

漁民研究グループの技術交流

今年も去年のような趣旨で、他府県と技術交流事様が計画されていた。国庫補助の関係で人員は多少減つたが、今年の計画は大体次のようになっている。

研修先	主なる研修項目	人員	地区その他
福井県菅浜	夏ブリ定価	四	但馬
三重県長島	ブリ仔釣	五	南淡由良八・九月
高知県平結	一本釣・曳縄	四	内海側
愛媛県西条	ばか貝漁業	四	淡路・十一月

研修生は、研修項目の漁業をしてゐる漁民であつて、漁民研究団体に入つてゐることを条件とする。研修の結果は、プリントによる報告書、報告会などで報告する義務がある。旅費実費（滞在費）は県費支給（半額国庫補助である。班員うち一名（引卒者）は、沿岸漁業改良普及員又は普及嘱託員がこれに当る。）

（水産試験場）